## 慶應義塾大学学術情報リポジトリ Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	リッカート法心理尺度における問題点とその改善、代替尺度の開発					
Sub Title	Problematic aspects of Likert-type psychological scales, their refinement, and an attempt to develop alternative scales					
Author	今井, 芳昭(Imai, Yoshiaki)					
Publisher	慶應義塾大学					
Publication year	2020					
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2019.)					
JaLC DOI						
Abstract	<ul> <li>本研究の目的は、心理学で多く用いられているリッカート法心理尺度(Likert, 1932)の問題点を列 学し、それらを改善もしくは代替する心理測定尺度を開発することである。今年度は、まず、尺 度項目で用いられている言葉の分析を行うために、言葉の使用頻度、他の言葉との連結皮を算 した。『心理測定尺度算!い Via」(サイエンス社)所収の心理尺度をテキストマイニング・ソフト KHCoder)で分析した。その結果、「自分(n=1,370)、人(865)、相手(234)、友だち(216)」という 算家の使用頻度が高く、自分と人との比較を中心に心理尺度が構成されていることがわかる。この 際の「人」のご義がで曖昧なようである。</li> <li>次に、心理尺度の言葉の違いが回答に及ぼす影響を明らかにするために、「影響力(社会的勢力) 影知尺度()(今井,1987).1mai,1993)を対象にデータを収集した。影響力(社会的教力) 影響力の(条切上)(今井,1987).1mai,1993)を対象にデータを収集した。影響力(社会的勢力) 影響力の(条切上戦)(今井,1987).1mai,1993)を対象にデータを収集した。影響力(社会的勢力) 影響力の(条切比戦)的高く(Min=697)、各合計を分析に用いた。父親、母親、配偶者を挙げた回答 したっ(=604)を知いて、抽象度素(学力、名合計を分析に用いた。父親、母親、配偶者を挙げた回答 着のデータへ(=604)を用いて、抽象度は対象(物参考)なあいうみ場り返しのある分散分析を行った。抽 度×対象人物要因の交互作用(F(2,598)=3.631, p=.027, 122人(男性601人、女性581人、平均年齢39.41歳(SD=11.82))の回答を得た。条件ことの6.影 響力の(本数は比戦的高く(Min=697)、各合計を分析に用いた。父親、母親、配偶者を挙げた回答 着のデータ(=1604)を用いて、抽象飲ま対象人物、参戦学力の繰り返しのある分散分析を行った。抽 度×対象人物要因の交互作用(F(2,598)=3.631, p=.027, 12=012)が認められ、父親(特に参照影響力)の場合に抽象&gt;具体というう意差が認められた。 全体的には質問項目の14歳(上載令的な表現における回答の美型なしてくい場合は、抽象的な表現の方が評定値の高くなる可能性が示唆された。今後、 態度やバーソナリティーなとの心理尺度についても検討し、質問項目の表現による回答への影響 を明らかしていく必要があると考えられる。 The present study's purpose was to reveal problematic aspects of Likert-type scales (Likert, 1592) refine them, and develop alternative scales. First, I Computed the frequency of usage of words an connectivity auropose was to reveal problematic aspects of Likert-type scales (Likert, 1592) refine them, and develop alternative scales. First, I Computed the frequency of usage of words an connectivity aurong words of psychological scales in the "Handbook of psychological scales I-VI" published by "Saiensu-sha" in Japan were analyzed using KI Coder text-ming software. The frequency of use of words such as "self" (n=1,370), "people" (865), "other persons" (234), and "friends" (216) was relatively high. It was found that psychological scales are mainly constructed to measure comparisons between self and others, and that the words "others or other people" have multiple meanings and are are molygous.</li> <li>Second, I collected data</li></ul>					
Notes						
Genre	Research Paper					
20	a series a series and a s					

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 2019 年度 学事振興資金(個人研究)研究成果実績報告書

研究代表者	所属	文学部	職名	教授	<b>壮山</b> 物質	300(A)千円		
	氏名	今井 芳昭	氏名(英語)	IMAI Yoshiaki	補助額			
研究課題(日本語)								
リッカート法心理	理尺度における	問題点とその改善、代替尺度	の開発					
				<b>.</b>				
研究課題(英訳) Problematic aspects of Likert-type psychological scales, their refinement, and an attempt to develop alternative scales								
Problematic as	pects of Likert <sup>.</sup>	-type psychological scales, the	eir refinement, a	and an attempt to develop alte	ernative scales			
1. 研究成果実績の概要								
心理測定尺度 2 葉との連結度 た。その結果、 が構成されてし 次に、心理尺 1993)を対象に 浮かべさせ、報 (SD=11.82))の げた回答者の 五作用(F(2, 59) 全体的には質 的な表現の方が	を開発すること を開発すること を算出した。『心 「自分(n=1,370, へることがわかる 、で一タを収(罰)、 して、 で一タを収(罰)、 単体を得そのよう。 のです。 、 のです。 、 でのです。 、 のです。 でのでのです。 でのでのです。 でのでのです。 でのでのでのです。 でのでのです。 でのでのでのでのです。 でのでのでのでのでのです。 でのでのでのでのでのです。 でのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのです。 でのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでの	多く用いられているリッカート っ である。今年度は、まず、尺度: い理測定尺度集 I ~ VI』(サイ: いな回答に及ぼす影響を明 た。影響力認知尺度は、回答 表現を用いた低条件を設定し 件ごとの6影響力の $\alpha$ 係数( 用いて、抽象度×対象人物× 7, $\eta$ 2=.012)が認められ、父親 的と具体的な表現における回 なる可能性が示唆された。今後 らかにしていく必要があると考	項目で用いられ エンス社)所収 (216)」という言う なようである。 らかにとってもう 影響って日常 影響カ(各4頭 影響カの解 影響た。 転 物の に参 に を の た の た の た の に の の の の の の の の の の の の	たいる言葉の分析を行うため の心理尺度をテキストマイニン 葉の使用頻度が高く、自分と うに、「影響力(社会的勢力) 、最も影響を与えていると認知 目)について評定させるもので で 1,182 人(男性 601 人、女情 in=.697)、各合計を分析に用し 返しのある分散分析を行った。 力)の場合に抽象>具体という られなかったが、具体的な事例	に、言葉の使用 、グ・ソフト(KHC 人との比較を中小 認している対象を している。原型、平均 ある。反親、母親 、な象度 、なり 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	頻度、他の言 oder)で分析し 心に心理尺 #, 1987; Imai, 、物を1人思い (表齢 39.41 歳 4、配要因の られた。 ・場合は、抽象		
			成果実績の概要	要(英訳)				
The present study's purpose was to reveal problematic aspects of Likert-type scales (Likert, 1932), refine them, and develop alternative scales. First, I computed the frequency of usage of words and connectivity among words of psychological scales in this fiscal year. Scales in the "Handbook of psychological scales I-VI" published by "Saiensu-sha" in Japan were analyzed using KH Coder text-mining software. The frequency of use of words such as "self" (n=1,370), "people" (865), "other persons" (234), and "friends" (216) was relatively high. It was found that psychological scales are mainly constructed to measure comparisons between self and others, and that the words "others or other people" have multiple meanings and are ambiguous. Second, I collected data on "Perceived Social Power Scale" by Immi (1987, 1993) to reveal effects of usage of different words of the scale items in the responses. The scale is used to measure reward, coercive, legitimate, expert, referent, and attraction power of the abstraction condition and the version used more concrete expressions as a low-level condition. In all, 1,182 individuals (601 males and 581 females with an average age of 39.41 (SD=11.82)) answered the scale. An analysis of variance with repeated measure of abstraction level x target persons x social powers was conducted on data from 604 respondents who answered their father, mother, and marital partners as an influencing agent. An interaction of abstraction level x target persons was significant (F(2, 598)=3.631, p=. 027, $\eta = =.012$ ), indicating that rating points of the high abstract condition were higher than that of the low condition in the case of referent power of the respondents' father. Although differences between the two levels of abstraction conditions were not significant on the whole, it was suggested that rating points of items with abstracted words were higher than items with concrete words when respondents could not imagine concrete episodes with the target person. A future task is to further reveal inf								
3.本研究課題に関する発表								
発表者 (著者・	皆氏名 講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	(津	発表学術誌名 皆書発行所・講演学会)	学術誌系 (著書発行年月	፧行年月  ・講演年月)		